

これはアストラゼネカ英国本社が2006年2月2日に発信したプレスリリースの日本語訳です。
日本で未発売の製品については英語標記のままとしています。

AstraZeneca PLC 2005年第4四半期・通年業績

「2005年の1株当たり利益は44%増; 主要製品の堅調な売上増と効率の改善が寄与」

ファイナンシャルハイライト

グループ	第4四半期	第4四半期	前年	恒常	通年	通年	前年	恒常
	2005	2004	同期比	為替	2005	2004	同期比	為替
	\$m	\$m	%	%	\$m	\$m	%	%
売上高	6,286	5,799	+8	+9	23,950	21,426	+12	+10
営業利益	1,636	1,271	+29	+26	6,502	4,547	+43	+39
税引前利益	1,689	1,295	+30	+29	6,667	4,844	+38	+34
1株当たり利益								
特別損益控除時	\$0.77	\$0.55	+38	+37	\$2.91	\$2.01*	+44	+41
最終決算	\$0.77	\$0.55	+38	+37	\$2.91	\$2.18	+33	+30

*2004年第3四半期には特別損益項目が2つあり、税引前利益で2億1,900万ドル、1株当たり利益で0.17ドルの増収要因となりました。これら特別利益を控除すると、1株当たり利益は前年比44%増加しました(報告ベース)。

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート(CER)

- 通年の売上高は10%増の239億5,000万ドルでした。
- 営業利益は、堅調な売上増と継続的な生産性向上の影響により、39%増の65億200万ドルでした。通年の営業利益率は27.2%に上昇しました。
- 売上高が10億ドルを超える製品が10製品に達しました。
- 5つの主要製品(Nexium™、セロクエル™、クレストール™、アリミデックス™、Symbicort™)の通年の売上合計は27%増の108億4,900万ドルでした。
- セロクエルの新規適応症(うつ病エピソードを伴う双極性障害)の承認申請が米国FDAに12月に提出されました。
- 開発パイプラインが強化されました。4つの新規化合物が開発段階の第III相に移行しました。
- 開発パイプラインは、3件のライセンス契約(第III相の化合物が1製品、第II相の化合物が2製品)ならびに12月に発表されたKuDOS Pharmaceuticals社の買収によっても強化されました。
- 通年の配当は38%増の1株当たり1.30ドルでした。
- 通年のフリーキャッシュフローは60億5,200万ドルでした。2005年の株の買い戻し総額は30億100万ドルでした。株の買い戻しは2006年も同様の水準で行う予定です。
- 当社は2006年の1株当たり利益を3.40ドルから3.60ドルと予想しています。これは2006年残りの11ヶ月間のToprol-XL™に関する約45セントの利益を含みます。

最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました: 「当社の素晴らしい財務業績には主要製品の堅調な売上増ならびに更なる効率の改善が寄与しました。当社の創薬部門からのアウトプットが増えるとともに、最近のライセンス契約によるものを含む社内外の研究による新薬が後期開発段階に入りました。しかし、今後とも製品パイプラインを更に強化するためにより多くの活動を行います。そして、これが私の最大の優先事項です。」

2006年2月2日 ロンドン発

Media Enquiries: Steve Brown/Edel McCaffrey (London) (020) 7304 5033/5034
Staffan Ternby (Södertälje) (8) 553 26107
Rachel Bloom-Baglin (Wilmington) (302) 886 7858

Analyst/Investor Enquiries: Mina Blair (London)/ Jonathan Hunt (London) (020) 7304 5084/ 5087
Staffan Ternby (Södertälje) (8) 553 26107
Ed Seage/Jörgen Winroth (US) (302) 886 4065/(212) 579 0506

Photos of David Brennan, Chief Executive Officer, Jonathan Symonds, Chief Financial Officer, and Dr. John Patterson, Executive Director Development are available on www.newscast.co.uk

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート (CER)

通年

年間売上高は恒常為替レートベースで10%、報告ベース（為替益2%を含む）で12%増加し、すべての地域で堅調な売上が得られました（米国12%増；欧州8%増；日本8%増；他の地域15%増）。

研究開発費および販売・一般管理費の総額は恒常為替レートベースで2%（報告ベースで3%）増加し、年間営業利益は39%増加しました。1年間の1株当たり利益は2004年の2.18ドル（これには売却益と税額控除による特別収入0.17ドルが含まれます）から2.91ドルに上昇しました。前年の利益からこれらの項目を除くと、1株当たり利益は41%増となります。取締役会は第2回中間配当金を0.92ドルに引き上げることを勧告し、これにより本年度の年間配当額は38%増の1.30ドルになります。

年間売上高が10億ドルを超える製品が10製品に達しました。主力5製品（NexiumTM、セロクエルTM、クレストールTM、アリミデックスTMおよびSymbicortTM）の総売上高は27%増の108億4,900万ドルに達しました。

NexiumTMの年間売上高は18%増の46億3,300万ドルに達しました。米国市場では販売量は引き続き好調な伸びを示しましたが、実勢価格の低下により一部相殺され、15%増の31億2,500万ドルとなりました。他の市場では25%増を記録しました。

クレストールTMの年間売上高は38%増の12億6,800万ドルに達し、米国内の売上高は34%増でした。米国スタンチン市場の新規処方数に占めるクレストールTMのシェアは1月20日終了週現在、6.9%であり、他の市場でもフランス、イタリアおよびカナダの好調な売れ行きに支えられ、売上高を41%伸ばしました。

SymbicortTMの売上高は22%増の10億600万ドルでした。11月に新たな臨床試験データが発表され（COSMOS用量調整試験）、新しい治療コンセプトである「Symbicort維持・リリーバー療法」は定用量のフルチカゾン/サルメテロールよりも有効であることが証明されました。「Symbicort維持・リリーバー療法」のEU承認申請手続きは2005年10月に開始しました。

アリミデックスTMの年間売上高は44%増の11億8,100万ドルに上り、米国（59%増）でも他の市場（35%増）でも好調でした。乳癌のホルモン療法薬の市場に占めるアリミデックスTMの金額ベースのシェアは現在50%に達し、これは最も近い競合製品のシェアの2倍を超えています。

セロクエルTMの売上高は米国の20億300万ドル（33%増）を含む27億6,100万ドル（35%増）でした。米国の抗精神病薬市場での新規処方数に占めるセロクエルTMのシェアは12月に29.8%に上昇し、上位3製品のうち2005年にシェア率を上げた唯一の製品となりました。他の市場でも40%増加しました。12月30日に当社はうつ病エピソードを伴う双極性障害の治療薬として承認を得るため、米国FDAに追加新薬承認申請を提出しました。これが承認されれば、セロクエルTMは躁うつ両エピソードを伴う双極性障害の治療に使用できる唯一の薬剤となります。

当社は引き続き知的所有権侵害からの防御に積極的に取り組んでいます。11月にニュージャージー州管轄区連邦地方裁判所で2件の訴訟を提起しました。1件目はセロクエルTMに関する財産特許権の故意の侵害により、Teva Pharmaceuticals USA社およびTeva Pharmaceuticals Industries社を提訴しました。2件目はNexiumTMに関する当社特許権の故意の侵害を理由にRanbaxy Laboratoriesを提訴しました。2006年1月17日、ミズーリー州東部管轄区連邦地方裁判所のロドニー・シッペル判事は、当社が主張するToprol-XLTMに対する特許権は、米国特許庁でのこれら特許権の告訴における当社の不正な行為にもとづき、法的強制力はなく無効であるとの判決を下しました。当社はこの司法判断に不服であり、遺憾に思います。当社は両特許権の有効性と法的強制力を主張し、上訴する予定です。

第4四半期

第4四半期の売上高は恒常為替レートベースで9%、報告ベース（為替損1%を含む）で8%増加し、62億8,600万ドルを計上しました。米国および他の地域でそれぞれ9%の増加が得られました。主力5製品の売上高はセロクエルTM、NexiumTMおよびアリミデックスTMの好調な伸びに牽引され、全体で21%増を記録しました。

営業利益は第4四半期に恒常為替レートベースで26%（3%の為替益を含む報告ベースで29%）増加しました。本年第4四半期には生産効率化のための準備金1億500万ドルを計上しましたが、前年同期にはExantaTMおよびイレッサTMに関する準備金1億5,600万ドルを計上しています。第4四半期の1株当たり利益は2004年同期の0.55ドルから0.77ドルに増加しました。

今後の見通し

当社は引き続き、自社の研究所および社外の契約研究機関による創薬開発に取り組むことで、製品パイプラインの一層の強化を目指します。当社の財務基盤は強固であり、これをもとに研究開発部門への投資を拡大し、高い収益力を利用して、パイプライン強化のために社外から魅力的な研究の機会を取得します。引き続き生産性の改善に注力することが、こうした優先課題への投資に不可欠です。

優れた営業実績と費用管理による財務力強化とともに、2005年にみられた生産性の改善は2006年も継続して行きます。これにもとづき、当社は1株当たり利益を3.40～3.60ドルと見込んでいます。

この目標額には、本年の残る11カ月間にToprol-XLTMに関連して得られる利益約0.45ドルが含まれます。このため、万一ジェネリック企業が上訴の判決を待たずに「リスクのある状態で」規制当局の最終承認を得て、発売にこぎつけた場合、Toprol-XLTMによる利益にきわめて大きな影響が発生する可能性があります。この影響にはいかなる一時資産または必要な在庫の調整も含まれません。

注意：当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確定要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、上訴の決着前にToprol-XLTMの後発競合製品が米国市場に導入される可能性もあり、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、クレストールTM、NexiumTM、セロクエルTM、SymbicortTM、アリミデックスTM、カゾデックスTM）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確定要素と考えられます。これらやその他のリスクや不確定要素については、2004年アニュアルレポートForm20 - Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。表中の売上高の単位は100万ドルである。

消化器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2005	2004		2005	2004	
Losec™/ Prilosec™ (オメプラール)	411	446	-8	1,652	1,947	-17
Nexium™	1,247	1,106	+13	4,633	3,883	+18
合計	1,677	1,576	+6	6,355	5,918	+5

- Nexium™の米国での年間売上高は15%増の31億2,500万ドルに達しました。米国PPI市場の総処方数に占めるNexium™のシェアは、前年12月から3.4ポイント増の30.3%を記録しました。Nexium™は2005年にPPI市場でシェアを拡大した唯一の先発品です。
- Nexium™の米国での第4四半期売上高は8%増でした。調剤された錠剤数量は引き続き好調に増加（14%増）しましたが、業績ベースの契約およびMedicaidによる実勢価格の低下により一部相殺されました。
- 米国以外の市場におけるNexium™の売上高は通年で15億800万ドル（25%増）に達し、市場シェアも2ポイント上昇しました。第4四半期の売上高は24%増でした。
- Prilosec™の米国での年間売上高は28%減少しました。米国以外の市場でもLosec™の売り上げは15%減少しましたが、日本では25%増、中国では16%増を記録しました。

循環器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2005	2004		2005	2004	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	455	381	+19	1,735	1,387	+24
Atacand™	247	240	+3	974	879	+8
Plendil™ (スプレンジール)	73	94	-22	360	455	-23
ゼストリル™	84	113	-26	332	440	-27
クレストール™	353	312	+12	1,268	908	+38
合計	1,378	1,321	+4	5,332	4,777	+10

- Toprol-XL™の米国での年間売上高は、2004年に派生した卸在庫減の影響で、実質成長率23%増を上回る32%増でした。米国での第4四半期売上高は29%増でした。
- 2006年1月17日、当社は、ミズーリー州東部管轄区連邦地方裁判所のロドニー・シッペル判事から当社が主張するToprol-XL™に対する特許権は無効であり、法的強制力はないとの判決を受けたことを発表しました。当社はこの司法判断に不服であり、遺憾に思います。当社は両特許権の有効性と法的強制力を主張し、上訴する予定です。
- 米国以外の市場におけるセロケン™の売上高は第4四半期に4%減少しましたが、通年では4%増でした。
- Atacand™の米国での売上高は、総処方数の減少を反映し、通年で8%減少しました。心不全の適応症追加後にプロモーションを積極的に展開したことで、2005年下半期にはAtacand™の処方数における市場シェアは安定しました。

- 米国以外の市場におけるAtacandTMの売上高は、第4四半期で10%増、通年で14%増を記録しました。
- クレストールTMはこれまでに75カ国の市場で承認され、69カ国で発売されました。2003年初めの最初の発売以来、600万人がクレストールTMによる治療を受け、処方数は4,000万件に上ります。クレストールTMの年間売上高は38%増の12億6,800万ドルに達しました。
- 米国でのクレストールTMの年間売上高は34%増で7億3,000万ドルを計上しましたが、前年第4四半期と比べると4%の増加にとどまりました。米国スタチン市場の新規処方に占めるクレストールTMのシェアは1月20日終了週で6.9%でした。ダイナミックマーケット（新規、切り替えの患者）のシェアは先週8.8%を記録しました。
- 米国以外の市場ではクレストールの第4四半期売上高は27%増加しました。欧州（44%増）およびカナダ（25%増）の好調な伸びに支えられ、年間売上高は41%増を記録しました。クレストールTMのスタチン市場における数量ベースでのシェアは現在、カナダ13.4%、オランダ11.2%、イタリア11.7%、フランス6.0%です。
- スプレンジールTMの年間売上高は、米国市場への後発品参入の影響を受けて23%減少しました。米国市場では49%減でした。

呼吸器

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2005	2004		2005	2004	
Symbicort TM	264	219	+22	1,006	797	+22
パルミコート TM	338	313	+8	1,162	1,050	+9
Rhinocort TM	92	93	-2	387	361	+6
アコレート TM	17	32	-47	72	116	-39
Oxis TM	22	25	-12	91	101	-14
合計	773	722	+7	2,873	2,583	+9

- SymbicortTMの年間売上高は10億600万ドルに達しました。喘息およびCOPD市場で急速に成長している配合剤市場でのシェアが引き続き拡大し、売上高は第4四半期および通年ともに22%増を記録しました。
- 米国内での喘息治療用pMDI製剤の承認申請は9月23日に当局に提出されました。
- 2005年にSTAYおよびCOSMOS両臨床試験のデータが発表されました。これらの試験は大規模臨床試験プログラムの一環です。これらのデータから、新しい治療コンセプトである「Symbicort維持・リリーバー療法TM」は、固定用量の吸入コルチコステロイドまたは併用療法よりも、生命にかかわる喘息発作の発現を予防することが一貫して示唆されました。EU規制当局に対するこの治療コンセプトの承認申請を2005年10月に提出しました。
- パルミコートTMの年間売上高は9%増加しました。他の市場では2%減となりましたが、米国内での18%増（パルミコートTM RespulesTMの28%増によって牽引）により、全体では売り上げ増となりました。
- RhinocortTMは価格の変更とマネージドケアの払い戻し調整がプラスに作用し、総処方数は10%減少したものの、主に米国市場でのRhinocortTM Aquaの堅調な売り上げ（7%増）に支えられ、年間売上高は6%増を記録しました。

オンコロジー

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2005	2004		2005	2004	
カソデックス™	283	276	+5	1,123	1,012	+10
ゾラデックス™	252	242	+5	1,004	917	+7
アリミデックス™	325	233	+40	1,181	811	+44
イレッサ™	72	80	-9	273	389	-31
Faslodex™	39	26	+50	140	99	+39
ノルバデックス™	28	35	-17	114	134	-16
合計	1,001	895	+13	3,845	3,376	+12

- カソデックス™の米国での売上高は第4四半期に5%減少しましたが、通年では3%増の2億3,900万ドルを計上しました。総処方数は前年比3%減となりました。
- カソデックス™の米国以外の売上高は第4四半期に7%増、通年で11%増でした。この売上増のほぼ半分は日本での業績によるものです。
- アリミデックス™の年間売上高は44%増の11億8,100万ドルを記録しました。乳癌のホルモン治療剤の市場に占めるアリミデックス™の金額ベースでのシェアは先月50%に達し、最も近い競合製品のシェアの2倍を超えました。本剤は乳癌の主要補助療法としての安定した特性により、アロマターゼ阻害剤のトップの地位にあり、ATAC試験から早期補助療法としてタモキシフェンよりも優れていることが立証されました。12月に3つの国際臨床試験の新しいメタアナリシスデータが報告され、タモキシフェン治療からアリミデックス™に切り替えた症例は、タモキシフェン継続例よりも全生存期間（overall survival）が改善することが確認されました。
- 米国でのアリミデックス™の第4四半期売上高は58%増加し、年間で59%増加しました。総処方数は前年比40%増、市場シェアは7.1ポイントの上昇となりました。
- アリミデックス™の米国以外の売上高は第4四半期に31%増加しました。欧州（35%増）と日本（27%増）での好調な伸びに支えられ、年間売上高は35%増を記録しました。
- イレッサ™の年間売上高は、主に米国での63%減により全体で31%の減少となりました。アジア太平洋地域の年間売上高は7%増であり、中国を初めとする市場の売り上げ増が日本での15%減を相殺し、さらに売上高の増加に貢献しました。
- Faslodex™は昨年3月の販売承認以降、欧州で堅調に推移し、年間売上高1億4,000万ドルを計上しました（39%増）。米国での売上高は通年で11%増でした。
- ゾラデックス™は米国での23%減を他市場の好調な売れ行き（13%増）が補い、年間売上高は7%増の10億400万ドルに達しました。

ニューロサイエンス

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2005	2004		2005	2004	
セロクエル™	755	562	+34	2,761	2,027	+35
ゾーミック™	94	89	+6	352	356	-3
合計	1,084	938	+16	4,059	3,496	+15

- セロクエル™の年間売上高は、米国市場の20億300万ドルを含め、総額27億6,100万ドル（35%増）に達しました。世界の非定型抗精神病薬市場に占めるセロクエル™の金額ベースでのシェアは、2005年9月30日までの12カ月間に2.7ポイント上昇しました。
- 米国市場でのセロクエル™は、処方数は20%増でしたが、実勢価格の上昇および契約払戻金の調整がプラスに作用し、売上高は第4四半期で34%増、通年で33%増を記録しました。米国の抗精神病薬市場での新規処

方数に占めるシェアは2005年12月に29.8%に増加し、前年比2.2ポイント上昇となりました。

- 米国以外の市場におけるセロクエル™の売上高は第4四半期に35%増を記録しました。年間売上高は欧州（48%増）、アジア太平洋地域（22%増）およびカナダ（29%増）での好調な業績により40%増加しました。
- 2005年10月、BOLDER II試験の結果が発表されました。画期的なBOLDER I試験の結果を裏付けるもので、セロクエル™の単独療法は双極性うつ病をプラセボよりも統計学的に有意に軽減することが確認されました。12月30日にはうつ病エピソードを伴う双極性障害の治療を新規適応症とする追加新薬承認申請を米国FDAに提出しました。これが承認されれば、セロクエル™は躁うつ両エピソードに伴う双極性障害の治療に使用できる唯一の薬剤となります。
- ゴーミック™の年間売上高は、米国以外の市場では成長したものの（8%増）、米国での18%減が響き、全体で3%減となりました。
- ディプリバン™の年間売上高は米国以外の市場では8%減でした。米国では後発品の参入による実勢価格の低下で44%減となりました。

地域別売上

	第4四半期		CER %	通年		CER %
	2005	2004		2005	2004	
米国	2,907	2,657	+9	10,771	9,631	+12
欧州	2,089	1,988	+7	8,463	7,649	+8
日本	424	412	+8	1,527	1,430	+8
その他	866	742	+10	3,189	2,716	+11

- 米国での年間売上高は12%増加しました。Prilosec™、Plendil™およびイレッサ™の売上は減少したものの、Nexium™、セロクエル™、Toprol-XL™、アリミデックス™およびクレストール™の堅調な売れ行きに支えられ、良好な成績を収めました。
- 欧州での年間売上高は8%増加しました。販売高は順調な伸びを示しましたが、価格の引き下げの影響を受けました。主力5製品の売上高は全体で30%増となり、Losec™の24%減を吸収することができました。
- 日本での年間売上高は、オメプラール™、カソデックス™、ゾラデックス™およびアリミデックス™の好調な業績を反映し、8%増加しました。
- 中国では循環器系製品およびLosec™の堅調な売上増ならびにイレッサ™の上市をうけ、33%増の2億7,200万ドルの年間売上高を計上しました。

営業レビュー

別段の記載がない限り、伸び率は恒常為替レート（CER）

第4四半期

報告ベースで売上高は8%増、営業利益は29%増でした。恒常為替レートベースでは売上高は9%増、営業利益は26%増でした。

第4四半期の米国での売上高は報告ベースで9%増でしたが、当期の若干の在庫増および前年のマネージドケア利益の繰り入れを調整すると、8%の実質成長率となります。しかし、個々の製品の売り上げには前年の卸売業者の購入パターンが引き続き影響しています。

当期の売上高は為替変動により1%減少しましたが、営業利益は3%増加しました。また当期の為替変動により1株当たり利益は0.02ドル上昇しました。前年同期に比べると予想以上のドル高傾向で、ユーロは9%安となり、売上高は減少しました。一方、スウェーデンクローナは15%安、英ポンドは6%安であり、コスト削減に貢献しました。第3四半期には為替のマイナス影響が予想されましたが、全体ではプラス影響となりました。

営業利益率は報告ベースで22.0%から26.0%に4.0ポイント上昇しました。為替による0.7ポイントの上昇があったため、当期の実質改善率は3.3ポイントでした。

売上総利益率は3.7ポイント増の77.9%でした。メルク社に対する支払い額の減少（対売上比4.9%）により売上総利益率は0.1%上昇しましたが、為替により相殺されました。当期は生産効率化のための準備金約1億ドルを計上しましたが、前年はExanta™およびイレッサ™の引当金計1億5,600万ドルを計上しています。これらをすべて控除すると、製品構成および継続的な業務効率の改善により当期の実質改善率は2.7ポイントとなりました。

研究開発費と販売・一般管理費の総費用は32億7,600万ドルで、前年より11%増加しました。前年同期に比べ、研究開発費と販売・一般管理費は営業利益を0.9ポイント減少させました。研究開発費は報告ベースでは3%減少しましたが、恒常為替レートベースでは前年比1%増となりました。販売・一般管理費は、主に米国などの市場で製品投資が増加したほか、患者の意識啓発を支援するMedicare Outreachプログラムにも投資したことから、前年比15%増となりました。

金融商品に関する公正価格調整として第4四半期に3,800万ドルを計上しました。2,000万ドルは売上原価の減少として、2,200万ドルは研究開発費の減少として、また400万ドルは支払い利息の増加として計上しました。

通年

報告ベースの売上高は12%増、営業利益は43%増でした。恒常為替レートベースによる売上高は10%増、営業利益は39%増でした。為替変動の影響で1株当たり利益は約0.08ドル上昇しました。

米国では販売業務契約の締結により1年を通じて在庫量の変動が減少し、売上高は12%増を記録しました。下半期のマネージドケア利益の調整によって米国の年間売上高は2%増加したため、2005年の実質需要成長率は10%でした。

営業利益率は21.2%から27.2%に6.0%増加しました。為替による0.4ポイントのプラス影響を控除すると、2005年の営業利益の実質改善率は5.6ポイントでした。

売上総利益率は1.8ポイント増の77.6%でした。メルク社に対する支払い比率の低下（対売上比4.8%）および為替によって、売上総利益率に対しそれぞれ0.1ポイントのプラス影響が出ました。前年のExanta™およびイレッサ™の引当金計2億3,600万ドル、本年第1四半期に発生したMedpointe社とのゾーミグ™販売契約の終了に伴う費用ならびに本年第4四半期に計上した生産効率化の準備金を控除すると、実質改善率は前年比1.2ポイントとなりました。

研究開発費は4%減、販売・一般管理費は4%増で、両費用の合計は2%増加しました（報告ベースで3%）。両費用の変動により、年間営業利益は4.1ポイント増加しました。本年第4四半期に発生したLosec™（オメプラゾール）の欧州販売手数料およびMedicare Outreachプログラムへの投資を控除すると、販売・一般管理費の増加率は約2%でした。

Durascanの営業権の売却益が発生した前年に比べて、本年は営業外収入が減少し、これにより利益率が0.3ポ

イント減少しました。

金融商品に関する公正価格調整として通年で2,300万ドルを計上しました。3,200万ドルは売上原価の減少として、1,700万ドルは研究開発費の減少として、また800万ドルは支払い利息の増加として計上しました。

利息・配当収入

第4四半期の正味利息・配当収入は5,300万ドル（2004年は2,400万ドル）で、年間累計は1億6,500万ドル（2004年は7,800万ドル）でした。前年からの増加は、主に平均投資残高と利回りが昨年を上回ったことによります。計上金額にはIAS（国際会計基準）19号に規定の従業員給付基金の資産と負債による正味利息収入（年間累計1,500万ドル、第4四半期200万ドル）を含みます。

税金

実効税率は第4四半期27.4%（前年同期の特別損益項目控除後税率28.3%）、12カ月累計29.1%（前年の特別損益項目控除後税率26.6%）でした。この前年からの税率の上昇は、海外の税額控除および振替価格に関連する準備金の変動によります。また、2004年には前年からの訴訟の決着により準備金を取り崩したことや、LosecTMの罰金に関する控除がなかったことも影響しました。さらに、2004年の税金は税務当局との合意により、繰越利益に関連する繰延税金負債の一時的な減額があり、これによるプラス影響がありました。

キャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローは、2004年の48億1,700万ドルから67億4,300万ドルに増加しました。主な内訳として営業利益が19億5,500万ドル増加し、運転資本におけるキャッシュフローの改善（特に在庫の減少）により現金収入が3億9,900万ドル増加しましたが、支払い税額が3億6,000万ドル増加しました。

本年のフリーキャッシュフロー（短期預け入れ金の移動を調整した財務活動を含まない正味キャッシュフロー）は2004年の39億3,200万ドルから60億5,200万ドルに増加しました。正味株式買戻し額28億5,800万ドル、株主に対する配当金17億1,700万ドルのほか、外国為替の影響を控除すると、現金・預金等は9億6,800万ドル増加しました。

投資活動による年間累計現金支出は前年の9億7,000万ドルに対して11億8,200万ドルでした。2004年の収入は主に投資戦略の変更によるものであり、グループの現金の大部分が国際財務報告基準（IFRS）では短期投資ではなく現預金に分類される流動性の高い資金に移動しました。

資本支出は2億5,300万ドル減少し、8億1,000万ドルを計上しました。第4四半期にCambridge Antibody Technologyに1億1,000万ドルを投資した2004年に比べて、本年の流動資産以外の投資に関する支出は1億500万ドル減少しました。2004年の売却益3億5,500万ドルは主にAdvanta営業権の売却処分によるものです。

2005年12月31日現在の正味現金資金は、2004年12月31日時点より14億600万ドル上回りました。

投資

2005年にAvanirおよびAstexと締結した新たな業務提携契約により、無形資産が2,000万ドル減少しました。製品の既存のライセンス契約に関してさらに4,400万ドルの支払いが発生しました。

12月にProtherics社、Targacept社およびAtherogenics社との新しい業務提携契約の締結を発表しましたが、これは2005年の決算には含まれません。Protherics社との国際開発と商品化の契約には4,100万ドルを投じる予定であり、これは純資産および無形資産の4.3%に相当します。Atherogenics社とのライセンス商品化契約には最初に当社から5,000万ドルの支払いが必要であり、Targacept社との研究業務提携契約にも最初に当社から1,000万ドルの支払いが必要です。こうした支払い金はいずれも無形資産として計上する予定です。

当社はKuDOS Pharmaceuticals社の株式資本総額2億1,000万ドルの買収契約にも合意しました。これにより現金および運転資金の調整が必要です。投資費用の大半はKuDOS社のオンコロジー技術の基盤である無形資産に反映されます。

当社は最近、第三者との研究の機会に関するライセンス契約に注目しており、バランスシート上の無形資産はさらに増加する予定です。これらの製品が開発に失敗すれば、これに伴う無形資産は償却する必要があります。

配当と株主への還元

取締役会は2006年3月20日に支払われる第2回中間配当金を43%引き上げ、0.92ドル（51.8ペンス、7.02 SEK）にすることを勧告しました。これにより、年間配当額は38%増の1.30ドル（73.7ペンス、10.01 SEK）になります。

昨年決定した方針に従い、取締役会は今後も引き続き収益に応じて配当金を増額（配当倍率を2～3倍の範囲に維持）しながら、株の買い戻しによりキャッシュフローのバランスを調整する予定です。2005年には配当と株の買い戻しにより、61億ドルのフリーキャッシュフローから47億ドルを分配しました。取締役会は今後もこの方針を継続する意向ですが、フリーキャッシュフローがまず必要とされるのは業務上のニーズであると確信しており、従来通り、株主には余剰金を返還する予定です。主たる業務上のニーズは社内外の研究の機会を支援する研究パイプラインの構築です。この方針にもとづき、取締役会は本年も2005年と同水準の株の買い戻しを予定しています。

株の買い戻しプログラム

第4四半期中に総額8億1,900万ドルを投じて普通株式1,790万株を買い戻し、償却しました。これにより、本年の年間買い戻し株数は6,770万株、総額30億100万ドルになりました。

2005年12月31日現在の発行済株式総数は15億8,100万株です。

将来の利息収入の推定額にもとづき、株式買い戻しプログラムによりEPSは0.08ドル増額したことになります。

最新の研究開発パイプライン

成人および青年期の定用量喘息治療薬としてのSymbicort™ pMDI製剤の米国承認申請は9月23日に提出され、FDAの審査が継続中です。一方、米国での第III相COPD試験が進行中です。欧州では長年にわたりSymbicort™のタービュヘラー製剤が喘息およびCOPDの維持療法薬として使用されていますが、「維持とリリーバー療法（SMART：Symbicort™ Maintenance and Reliever Therapy）」としての使用に関する追加承認申請が予定通り第3四半期に提出され、現在、審査調整国としてのスウェーデンとの相互認証手続きが進められています。pMDI用Symbicort™の欧州開発プログラムは拡大し、本製品の2つの新用量の効果を裏付けるデータが収集されています。これにより、既存のタービュヘラー™から新規pMDIデバイスへの切り替えが容易になると予想されます。このデータは2008年の承認申請までに準備される予定です。

2006年上半年にクレストール™に関する新しいデータを発表する予定であり、これには冠動脈アテローム性硬化症の退行に対するクレストール™の作用を評価したASTEROID試験のデータが含まれます。最近完了した薬剤疫学試験の結果も同時期に発表の予定です。

統合失調症の治療に用いるセロクエル™徐放剤の欧米での承認申請を2006年第3四半期に予定しています。セロクエル™に関して、現在、徐放剤による全般性不安障害（GAD）および大うつ病性障害（MDD）の第III相試験が進行中です。

Exanta™については2005年12月、新しい中央審査方式にもとづき欧州の規制当局に心房細動患者の脳卒中の予防を適応とする承認申請を提出しました。米国ではFDAとの話し合いを継続していますが、目下のところ米国でのExanta™承認への道筋が見出される可能性は低いと考えられます。

非小細胞肺癌および甲状腺髄様癌の治療に用いる血管内皮増殖因子（VEGF）/上皮成長因子（EGF）チロシンキナーゼ阻害剤のZactima™は、甲状腺の適応症に関して優先審査薬およびオーファンドラッグの認定を受けました。2005年12月にEU COMP（希少薬審査委員会）は甲状腺髄様癌の治療におけるZactima™のオーファンドラッグ認定について前向きな見解を示し、2006年1月にこれが採択されました。

糖尿病/メタボリックシンドロームの治療薬であるPPAR作動薬Galida™は2007年下半年に欧米での承認申請を目指していますが、このタイミングは、現在進行中の第III相試験の結果ならびに規制当局との話し合いにより影響を受ける可能性があります。

動脈血栓症の領域で開発中のADP受容体拮抗薬AZD6140は急性冠動脈症候群の治療を適応とする第III相試験に移行しました。

AZD0837の第II相データから、本剤は肝でのシグナルの点でExanta™と異なるが、半減期が短いために1日1回投与は不可能であることが確認され、徐放剤の開発を目指すことが決定しました。初期のデータから徐放剤の可能性は示唆されていますが、最長2年間は要する最終的な製剤に関するデータの収集が完了するまで、発売のための第III相試験には移行しない予定です。

2005年12月にアテローム性硬化症の治療薬である後期第III相化合物（AGI-1067）の権利をAtherogenics社より取得しました。また第II相の開発段階にある化合物2製品の権利も取得しました。すなわち、アルツハイマー病の治療薬TC-1734はTargacept社から、重度敗血症の治療薬Cytobab™はProtherics社から買収しました。

KuDOS Pharmaceuticals社の買収によって、当社のオンコロジー部門の創薬能力および早期パイプラインが一層強化されました。

最新の研究開発パイプラインの一覧表は本プレスリリースに添付されていますが、当社ウェブサイト www.astrazeneca.com の投資家情報のページでもご覧になれます。

カレンダー

2006年3月14日	Merckの支払いに関する教育セミナー
2006年4月27日	2006年第1四半期業績発表
2006年4月27日	2006年年次総会開催
2006年6月8日	ビジネスレビューミーティング(ロンドン)
2006年7月27日	2006年第2四半期・上半期業績発表
2006年10月26日	2006年第3四半期・9カ月累計業績発表

最高経営責任者
David Brennan